

かえり道 さそい道

前住からの法座お誘い状 第6号

●過ぎゆく時間…無常

※ノーベル文学賞を受賞したカズオ・イシグロの小説『日の名残り』を買い求めました。

※「品格ある執事の道を追求し続けてきたステイーブンスは、短い旅に出た。美しい田園風景の道すがら様々な思い出がよぎる。長年仕えたダーリントン卿への敬慕、執事の鑑だった亡父、女中頭への淡い想い、―過ぎ去りし思い出は、輝きを増して胸のなかで生き続ける。失われつつある伝統的な英国を描いて世界中で大きな感動を呼んだ：」と本の宣伝にありました。

※かつてほのかな恋心を抱いた女中頭と二十数年ぶりに再会した最終章の場面、苦くせつない会話がジーンと心に残りました。

「結局、時計をあともどりさせることはできませんものね。」
「おっしゃるとおりです、ミセス・ベン。おっしゃるとおり、いまさら時計をあともどりさせることはできません。…さよう、ミセス・ベン、私ども、みな、いま手にしているものに満足し、感謝せねばなりませんまい。」

※詩人の寺山修司は、

時計の針が前にすすむと
時間になります

後にすすむと
思い出になります

と綴りました。

※思えば私たちは、前にも後にもどちらにも針のゆれ動く時計をこころに抱えて生きているようです。

※そして、年月を重ねるごとに、その針は明日よりも過去の思い出へと動きたがります。時には甘く、時にはせつなく苦く。



●巡りゆく世界…往生そして成仏

※一日がめぐりまた朝になり一年がめぐりまた春が来ます。

※時間は絶え間なく過ぎていきますが、季節は始めもなく終わりもなく巡っていきます。

※念仏者の往生浄土とは、そんな巡りゆく季節に似ています。

※私はお浄土に生まれ有縁の人に会い、またお浄土から有縁の人のところに還って来ます。

※ふりかえれば、人はみなこの世に生まれ、時間という桑の葉を食べ続け人生という繭を作っています…まるで蚕のように。

※その蚕はやがて繭から羽化して蛾に成ります。

※けれども人はこの人生、念仏を申して仏(覚者)に成るのだと仏語は驚くべきことを告げます。

※念仏申せ念仏申せと告げ続けます。

※共に仏語(経)を聴聞しましょう。今年最後の法座にあなたのお越しをお待ちしています。

(平成29年 永代経法要 前住職)